

## 今回の学び

- 1 「コンパスは赤赤に合わせて！」(^o^)
- 2 ツェルトは紐がなければ設営できない。もちろん纏うことはできる。
- 3 ビーコンは山行中、必ず「送信」にしておく。
- 4 遭難者が見つかっててもビーコンの送信モードはそのままだ（搬送時、また流した事例あり）。

### <お手本のツェルト設営>



感想) 着るだけではなく、きちんと設置するためには、ロープ・支柱・張る紐・雪に刺すに適した物が必要なことを認識した。Tリーダーが雪に刺す代用としてスコップを使用し、雪かき出し用のスコップはダメと言われたと頭を掻いていた(^▽^)アハハ!



スキー板 2 本を支柱に華麗なテントが完成。内部は・・・スキー靴の座位が窮屈でないように足位置が削られ椅子状。中で N さんがあづましく昼食中。カップラーメンのいい匂い。



### <ビーコン操作>

3 種類の練習を T リーダーの元、念入りに行われた。

#### 基本の操作

- 山にいる間は必ず「送信」にしておくこと。
- ビーコンは上級機種を持った方がいい。
- 雪崩遭難者が出た時、ビーコンを「受信」に一斉に切り替える。
- 15 分以内での発見が生存の鍵。
- 流された時、遭難者の流される状況を追視する。最後に見えなくなった位置から探す。

開始時は柔らかな雪と暖かな日差しが・・・

(1) 一人が流されたという想定

記録 M 素手で記録を重ねブルブルであった。

① まずは自分たちの安全確保

② 役割分担 (ビーコン係、ゾンデ係、スコップ係、見張り (記録) 係)

③ 遭難者位置 2m になったら、ビーコンを雪面に近づけ、位置をだいたい確定したら、ビーコンの雪面十字操作を行い確定する。そこにゾンデを立て、まずはスコップで掘り遭難者の衣服等が見えたところで手掘りに替える。

(2) 二人が流されたという想定

(3) 遭難者が二人同位置で上下に埋まっているという想定

※ビーコンがたくさんあり、切ったり切らなかったり、送信モードに戻さなかったり、いろいろ不具合があった。N 氏は「ビーコン一人でいいじゃ」と言った。「実際の現場では命取り。しっかり、訓練をする必要あり(..)ゆメモメモ。